

いしづち

2021.9

SEPTEMBER

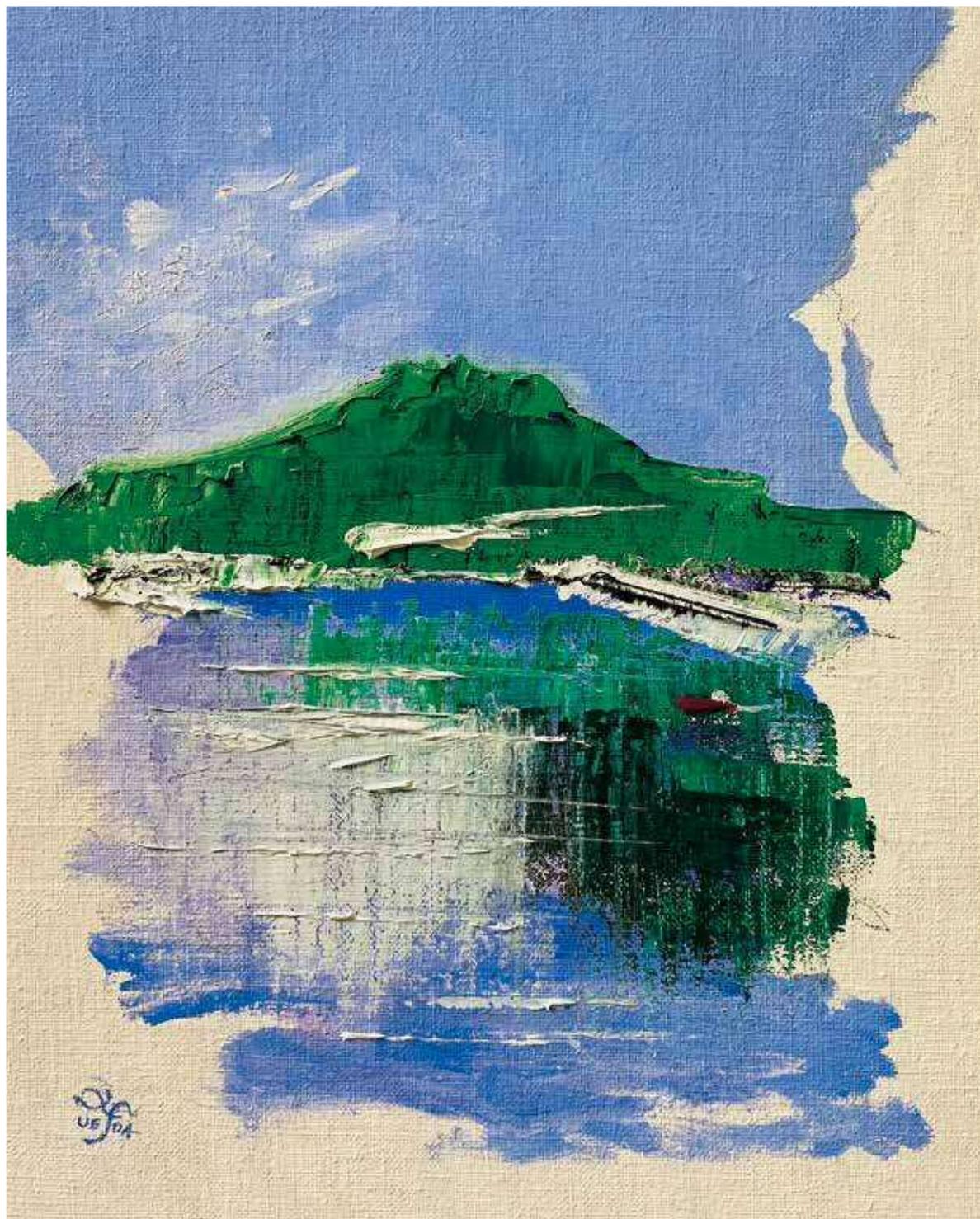
No.142



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>



世界建築紀行 謎の空中都市、遙かなるマチユピチユ
委員会報告
支部報告

1	世界建築紀行	謎の空中都市、遙かなるマチュピチュ	西予支部 松山 清……①
2	委員会報告	「良質な建築・美しい街づくりの仕組、萌芽事例シート」募集のお知らせ 「第1回景観写真コンテスト」募集のお知らせ	文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和……⑦
3	支部報告	今治支部活動計画及び進行状況 西予支部事業報告・計画	今治支部 支部長 森 昇平……⑧ 西予支部 支部長 水野 正一……⑧
4	けんちくの輪	「建築士の日」について 青春委員会	建築士会 会長 赤根 良忠……⑨ 松山支部 渡邊 道彦……⑩
5	お知らせ	令和3年度通常総会概要報告 第2回理事会概要報告	事務局……⑪ 事務局……⑪

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



水彩画

くしま
題：「久島」

[表紙画について]

久島は、宇和島港の西、沖合約3kmにある有人島。宇和海諸島の一部で宇和島に属する。2013年6月に架橋工事が着工し、総工費70億円と2年半の歳月をかけて全長468mの久島大橋が完成。世帯数462世帯。山の耕作地は南予特有の「段々畑」で、多くは柑橘類などの果樹園。

(ウイキペディアより)

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
(愛媛県建築士事務所協会主催)
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
(新潮社)の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
2010 愛媛県美術館に作品「ドライブフラワー」收藏される
2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「憐リチエルカ」を設立
2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

謎の空中都市、 遙かなるマチュピチュ

西予支部 松山 清

1 南アメリカ大陸アンデス山脈を越える旅



▲マチュピチュ遺跡と正面・ワイナピチュ山

“マチュピチュ”は南米ペルーにある世界遺産で、世界中から多くの人々がやってきます。首都リマは西海岸沿いにあり、マチュピチュへ行くにはリマの東南東約600 kmにある、標高3400mのアンデス山中のクスコまで飛行機で行き、さらにバスで標高4000mのアンデス山脈の峠を越えて北側山麓のオリヤンタインボ駅まで1000m以上下っていきます。そこからペルー鉄道のハイラムビンガム号でウルバンバ川沿いに高度を下げていった所にマチュピチュ村があります。その中心部から遺跡見学専用マイクロバスでつづら折れ13回のハイラムビンガムロードという山道を、高度差400m程登って行った標高2400m付近に遺跡がありました。アンデス山脈の東側に下った所にある、というイメージです。それだけアンデスの奥に入り込んで行った所なので、そこは実はクスコ北西部のアマゾン上流域なのです。



2 南米空の玄関、ペルーの首都リマ

2.1 サン・マルティン広場エリアで昼食

2016年10月26日、リマに降り立ちまず向かったのは、旧市街セントロの中心サン・マルティン広場。そこにはペルーの独立運動に貢献したサン・マルティン将軍の騎馬像が中央に立ち、広場を取り囲む建物は重厚でヨーロッパの街のよう。リマは南米の玄関口とも言われますが、スペインが南米を植民地支配をした拠点となり、町が繁栄したことを感じさせます。その



▲サン・マルティン将軍像



▲サン・フランシスコ教会

中のコロニアル風の建物にランチを食べた“PARDO'S CHICKEN ~”というレストランがあり、“炭焼きチキン”やペルーの名物カクテル“ピスコサワー”、“紫とうもろこしジュース”“テチャモラータ”など地元特産物の味を体験しました。

リマの旧市街は世界遺産に指定されており、美しい町並みを見ることができます。リマにはかなりの富が蓄積されており、道路沿いの建物は豪華なファサードや彫刻・出窓などがあり、見応え満点でした。このとき、道路を渡るのに苦労をしたという、リマならではの車優先の交通ルールに面食らいました。

2.2 世界遺産の旧リマ市街・セントロ

旧市街のもう一つの広場・アルマス広場から政府官庁街や銀行の本店などが建ち並ぶ狭い通りを抜け、サン・フランシスコ教会・修道院へと向かいました。南米の町にはアルマス広場を中心に造られた町がたくさんあります。サン・フランシスコ教会はアンダルシア・バロック様式の建物で、建築には約100年の歳月が掛かりました。かつて地下墓地となっていて、植民地時代の人々の骨が数万体埋葬されているそうです。大統領府へ向かう町並みを歩きながら、その通りに面する外壁を保存活用しているなど、我が町西予市の重伝建と似たところがあるなあ、など思いにふけりました。リマの町並みから植民地時代の面影と歴史が垣間見えました。

3 マチュピチュへの拠点、クスコ



▲クスコへの降下



▲幅の狭い市街の道路

3.1 アンデスの谷間がインカ帝国の拠点

マチュピチュ村へ行くには標高の高いクスコを必ず通ることになります。そのため、内臓の消化機能が低下するため、朝は食事を控えめにするよう添乗員から言われており、お粥と果物、ヨーグルトなどで済ませました。また、マチュピチュ村行きの列車にはスーツケースを持ち込めないので、1日分だけの荷物を用意して小さいキャリーケースに詰め込みます。

クスコまではランタム航空のA320型機で1時間程の飛行。いよいよアンデスの高地に足を踏み入れます。クスコ上空まで来ると、飛行機は尾根の切れ目を狙って、アクロバットのように180°左旋回してクスコの谷間の真ん中にある飛行場へ着陸態勢に入ります。両サイドの窓からクスコの住宅が広がる中ランディングしましたが、この技は有視界飛行でないとできない着陸ですね。

クスコは、第1印象が土色の町というもので、それは建物の煉瓦の色がそうさせているのか、あるいはインカ文明や遺跡の保存のためと思われます。空港からまずレストランやカテドラルなどが集中している、クスコの中心アルマス広場を目指しました。インカ文明は車輪の文化がなかったため道幅は極めて狭い造りとなっており、インカ帝国の道がそのまま使われているため、車社会の今ではかなり無理と不都合・不便があります。



3.2 クスコの世界遺産散策

ペルーの音楽といえば、フォルクローレ。食事のたびに生演奏があり、そのミュージシャンのCDを販売していました。やっぱり、「コンドルは飛んでいく」がクスコには似合っています。バイキングを食べて、その後アルマス広場から観光を始めました。

広場の真ん中では、カテドラルをインカ皇帝パチャクティの像が見つめています。カテドラルはスペインの象徴みたいなもので、そ



▲パチャクティ皇帝像

それを帝が睨み付けているわけです。クスコにはキリスト教に関係する建物が多く見られますが、スペイン人が太陽神を崇めるインカの人々を強引に改宗させようとした歴史を色濃く感じました。

クスコの空気は薄く、体調や感覚が違っているなあと思いながらゆっくり歩きました。ガイドからは、何度も腹式呼吸を勧められます。

その後、市内ではカミソリも入らないという石積みの町並みを歩き、クスコ市内の世界遺産では、必ずと言っていいほど紹介される、“12角形の石”まで行きました。インカの石積みの技術が如何に高度であったかを今の時代に伝えています。



▲12角型の石



▲サントドミンゴ教会中

現地ガイドはノエリさんという日本の滞在経験があるクスコ人の女性でした。スペイン人がマチュピチュをはじめとするクスコやインカ文明を滅ぼし、自分たちのキリスト教を原住民に押しつけた歴史や、そのた

めにインカの遺跡を破壊して町を作ったことなど、クスコ人に積もり積もったスペインに対する恨みを念入りに聞かされました。

クスコの街並みには、バルコニーやアーチが多く見られ、特に、白い壁にブルーのバルコニー、というのが印象的です。狭い通りを通過して、かつては“インカ帝国の太陽の神殿”だったと言われる、サント・ドミンゴ教会に出ました。建物の中へ入ると、世界で最も小さい、1cm角くらいのインカの石積みなどが残されていました。

3.3 クスコからアンデス越え



▲7階建てのクスコのビル



▲峠からのアンデスの山並み

もっとまともな道はないのか、というくらいかなり狭くて急勾配の道をどんどん山の上の方へバスは進んで行きました。斜面のかなり高い所までクスコの街は続いていて、7階建ての建物でも、レンガ式壁構造となっています。柱と床部分はかろうじてコンクリートですが、壁にはレンガが積まれていて、耐震性はあまり考えられていないのがわかります。

ペルー鉄道のマチュピチュ村行きの列車が出る標高2845mのオリヤンタイタンボ駅までは、アンデスを越えて2時間程バスで走りました。標高4000m付近の峠を越えて1000m以上山道を下ります。山道と言っても日本のように木が茂っているのではなく、森林限界を超えた草原の中を行く、という景色でした。

途中、峠からアンデスの山並みを見ることが出来て、その連続した厳しい表情を見せる高嶺からは、やはり

異国の大きな山脈であることを思い知らされます。遠くまで標高5000mを超える山々が続いていました。

オリヤンタイタンボから列車では観光客用の車両に乗り込み、1時間50分かけて標高2000mのマチュピチュ駅に午後9時前に到着。車両は指定席となっていて、各車両ごとに車内サービス係が常駐しています。ホテルに到着すると、リヤマのお肉料理などの夕食を摂って、翌日のマチュピチュ遺跡見学に備えました。



▲ハイラムビンガムロード



◀ 遺跡入口の段畑

4 マチュピチュ遺跡

4.1 混雑を避け、早朝から遺跡へ

朝、目が覚めてホテルの窓を開けてみると、周りは急峻な山ばかり。その中にポツンとマチュピチュ村があります。村の建物はやっぱりレンガ造りでした。

7時半にホテルを出発。5分程歩いてバス乗り場まで行きます。バスは乗客が満員になり次第、出発しました。定員20人のマイクロバスで、全部で30台でピストン輸送をしているらしい。バスは約25分猛スピー

ドで13回のヘアピンカーブを走って標高差400mを登り、遺跡の入り口に到着しました。

遺跡の中にはトイレがないため、これまた30分くらいの行列に並んで0.5\$を支払いトイレを済ませました。入口に番台があって、そこで料金を徴収されます。おつりもくれます。その後、ゲートから入場しました。そして100m程歩くとあの絶景が目に飛び込んできます。



▼市街地



▲インティワタナ

◀ 遺跡西側の段畑とウルバンバ川



4.2 展望台から時計回りに遺跡を見学

はじめにマチュピチュ山へ向かって入口左の段々畑の一番高い所を目指して木立の中を登り、見張り小屋の上の展望台まで行きました。ここからの見晴らしは抜群で、マチュピチュ遺跡の西面が見渡せます。眼下にはマチュピチュ村から流れてくるウルバンバ川が見えます。正面には、「若い峰」を意味する、尖ったワイナピチュ山。マチュピチュ遺跡は、ワイナピチュと、後方の「老いた峰」を意味するマチュピチュ山の上に築かれていました。まずはじめは南からマチュピチュ遺跡を見下ろすことになります。



▲このP字型の石積み、太陽の神殿

マチュピチュ遺跡は、「3つの入口の家」とか、「技術者の居住区」のような誰が付けたかわからない通称の呼び方で、それぞれのエリアが呼ばれていました。



▲インティワタナの日時計



▲東側の段々畑

まず、遺跡に入場して眼下に見えるのは、一番目立つ石積みの壁だけの建物、この辺りが“市街地”です。この中には、作業小屋などがあります。その先に“インティワタナ”と呼ばれる丘があり、上に突き出した岩が日時計でした。遺跡全体を見渡すことが出来、曆を読むための日時計の役割でした。その手前には、主神殿・神聖な広場などがあります。



▲農業試験場



▲石切場と見張り小屋



▲2階建ての家



▲マチュピチュの石積み

農作物の品種改良をしていたとされる段々畑。低地でしか育たないコカの木などを、マチュピチュでも育つように品種改良していたらしい。

技術者の居住区から、2階建ての家へ進んでいきます。マチュピチュの石積みは、クスコのカミソリの歯も通さない、と言われる石積みとはちょっと違って見えるように見えました。普通の石垣みたいな感じもします。



▲市街地の入口



▲主神殿の祭壇



▲技術者の居住区



▲3つの入口がある家



▲ 居住区の石積み

◀ マチュピチュ山と遺跡東側の段畑

▼ 段畑と倉庫

マチュピチュ山とは、遺跡の後ろ側の高い、石を切り出していたところの名前です。段々畑は、マチュピチュ山のかなり下まで築き上げられていました。

最後に居住区から“コンドルの神殿”に向かいました。遺跡の中で聞いた説明は、だいたい忘れてしまうくらい濃厚でたくさんの解説もあって、やっぱり現地で聞かないと、“なるほど”と思えないことばかりでした。

遺跡からマチュピチュ村まで戻り、街の中を散策して、夕方のマチュピチュ発のペルー鉄道でオリャンタイトンボヘ向かいました。車両の上部がガラス張りになっているビスタドームと呼ばれる車両だったので、ウルバンバ川の渓谷のパノラマを楽しむことが出来ました。



▲ コンドルの神殿



▲ 遺跡専用のマイクロバス

5 マチュピチュ遺跡は日本の高野山

マチュピチュの天気は、行ってみないとわからないと言われていましたが、幸運にもよい天気恵まれ、周囲の山々も見渡すことが出来ました。日が照らないと寒いらしいのですが、この日は太陽が燦々と降り注いだので、日陰があれば入りたくらいでした。

マチュピチュ遺跡を観光している人は、天気が晴れている朝のうちに入場して、雲が出てくるお昼頃には下山する人が多く、そのため帰りのバスは長い列ができていました。

日本ではあまり知られていませんが、長いインカ道トレッキングしてマチュピチュ遺跡までやってきた人も見られました。マチュピチュは、今から百年程前に探検家ハイラム・ビンガムによって発見され、突如として脚光を浴び歴史に登場してきましたが、その基本的存在意義は“日本の高野山”と思えばすべての謎が説明できる、と納得しました。



▲ ハイラム・ビンガム号



▲ ビスタドーム

文化財・まちづくり委員会

文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和

「良質な建築・美しい街づくりの仕組、萌芽事例シート」募集のお知らせ

愛媛県内の「良質な建築・美しい街づくりの仕組、萌芽」の取り組みの情報共有、活用へ向けて、事例を募集いたします。「防災まちづくり」「福祉まちづくり」「景観まちづくり」「空き家まちづくり」「歴史・文化財まちづくり」などに関して、身近に参考になる事例がございましたら、フォーマットへご記入の上お知らせください。

- 締切 令和3年10月31日(日)
- 応募資格 建築士会正会員、準会員並びに賛助会員及びヘリテージマネージャー
- 書式 「良質な建築・美しい街づくりの仕組、萌芽事例シート」
※愛媛県建築士会HPよりダウンロードしてください。概要（200文字程度）、写真貼り付け
注：「撮影・掲載のお願い」を所有者の方へお渡しください。※愛媛県建築士会HPにあります。
- 提出先 メールアドレス：kubotomi@kubotatomi-kensetsu.com
メールのタイトルは【良質な建築・美しい街づくりの仕組、萌芽事例シート】としてください。
- 今後の展開 集まりました「良質な建築・美しい街づくりの仕組、萌芽事例シート」は、愛媛県建築士会のホームページで紹介するとともに、特に皆様にご紹介したい取り組みに関しては、紹介いただいた事例の勉強会を設ける予定です。
- 参加特典 ある程度事例が蓄積された時点でファイルにまとめます。その際に、事例シートをご提出いただいた方にはファイルを無料で1冊プレゼントさせていただきます。

「第1回景観写真コンテスト」募集のお知らせ

□趣意
「景観」という言葉が使われ始めてどのくらい経つでしょうか。我が国では学術的に使われていたこの言葉ですが、2004年に景観法が制定されてからようやく巷で聞かれる言葉となりました。でも「景観」って何でしょう？景観法という割には「景観」という言葉は定義されていません。定義するのが難しいというのもあるでしょう。それなら人それぞれの「景観」があってもいいはず。愛媛県建築士会ではあなたの「景観」を募集します。次世代に残していきたい愛媛の景観を私たちに教えてください。

- テーマ 愛媛県内における次世代に残していきたい建築物のある景観
- 応募締切 令和3年12月31日（当日消印有効）
- 応募資格 建築士会正会員、準会員並びに賛助会員（所属する個人含む）ならどなたでも応募できます。
- 応募規定 **応募方法は、※愛媛県建築士会ホームページでご確認下さい。**
- 入賞について 特賞1点/入選4点/佳作4点/奨励賞1点（入賞は一人1点とします）
- 選考審査委員・北村 徹(Toru Kitamura)：1950年 神奈川県横須賀市出身 日本建築写真家協会正会員
・愛媛県建築士会役員及び文化財・まちづくり委員会
- 選考結果 入賞した作品は、ご本人様へ連絡するとともに当法人公式ホームページ等においてご報告させていただきます。（お電話でのお問い合わせはご遠慮ください）
- 写真展示会 愛媛県建築士会館にて入賞作品を展示いたします。

※愛媛県建築士会ホームページ：<http://www.ehime-shikai.com>

今治支部活動計画及び進行状況

今治支部 支部長 森 昇平

今治支部では、前回の支部報告で予定していた支部活動を準備中です。

建築士の日の行事としての清掃活動は、10月末頃、今治市の大三島にある宿泊施設「大三島 憩の家」で行うこととなりました。同施設をリノベーションした伊東建築塾の塾長である建築家伊東豊雄氏が大三島に来られる日程に合わせて行うこととなり、詳細な日程は未定です。清掃活動に併せて、伊東氏より大三島における伊東建築塾の活動について座会をしていただける予定です。

住育活動「おかしなまちをつくらう！」は、12月18日に今治市クリーンセンター「バリクリーン」で開催する予定です。11月の広報にて告知し、参加者を募ることになっています。市内の小中学生を集めて行う今治支部の恒例行事ですので、感染症対策には十分配慮して実

施する方針で、例年より参加の定員を減らし、広い会場で行う計画をしています。

前回報告の活動計画以外の活動として、昨年度スキルアップ事業として作成したパンフレット「身近な施設をCLTで」から発展し、今治地区CLT利用検討会に参加しております。同会は、東予地方局農林水産振興部今治支部森林林業課内に事務局を置き、「地域材の需要拡大に大きく寄与するとともに、建築・設計分野への波及効果も期待できるCLTについて、今治地区の関係機関の連携協力体制を強化し、建築物等への利用に関する技術的課題等を解決し、今治地区における建築物等へのCLT利用の促進を図ることを目的とする」ものです。

いずれの活動も、新型コロナウイルス感染症対策を十分講じ、良い支部活動としていきたいと思っております。

西予支部事業報告・計画

西予支部 支部長 水野 正一

7月に東京オリンピックが開催されました。半世紀ぶりの東京開催で日本中が元気に・活性化する予定だったのですが……。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言状況下での開催に、賛否両論あるなか、頑張っているアスリートは希望の灯でした！

西予支部では、昨年の建築士の日行事として、『卯之町はちのじまちづくり整備事業』の一環である駅前複合施設の見学会・研修会を計画していましたが、密が避けられない、との判断で、やむなく中止となりました。卯之町駅前まちづくり事業は未だ継続中ですが、複合施設は完成していますので、皆様是非、お立ち寄りください。

今年の建築士の日の行事は、『こんな家があったらいいのにな♪』絵画展を計画し、現在西予市内の小中学生を対象に、夏休み選択課題の一部として編入していただき、児童たちの自由な発想絵画を募集しているところです。

展覧会開催予定の11月頃には、新型コロナウイルスが収束していることを願います。

次世代を担う子供たちが建築に興味を持ち、今後の建築界の発展に繋げていってくださることを期待しています。

令和3年「こんな家があったら、いいのにな!!」 絵画 募集



「こんな家が、あったら いいなあ!!」と、思う家の **絵** を、描いてみませんか。

参加資格：西予市内 小学生 ならば、参加自由です。

題 材：【家】であれば、自由です。

たとえば、「せいよに 建ててみたい 我が家」・「動物と暮らす家」など、何でもかまいません。

ぜひ、「夢のある家」の絵を、描いて下さい。 たくさんのお応募、お待ちしております。

応募要項

絵の大きさ：四つ切画用紙

裏面に、【絵の題名・学校名・学年・名前】を、書いて下さい。

応募締め切り：令和3年9月7日

提出先：各小学校

(9月8日から、回収予定です。)

展覧会・表彰式 予定：西予市庁舎 1Fギャラリーで、10月～11月ごろの予定です。(場所は変更になるかも?)
優秀な作品を、展示します。(展示出来る枚数に、制限が出るかもしれません。)

「建築士の日」について

建築士会 会長 赤根 良忠

建築士の日について振り返ってみました。

「建築士の日」は岩手県に於いて開催された第30回建築士会全国大会で「7月1日を建築士の日とし、社会に広くPRし、われわれ自身も改めて建築士の意識を再確認する」と大会決議されました。現在、全国建築士会で多種・多様な活動が行われています。

この日にちなんで愛媛県建築士会では、7月1日前後に県内各支部にて様々な建築士会PR活動を行ってきております。直接担当した松山支部で開催された行事を思い起こしてみると、平成19年まで行ってきた催しを平成20年にガラリと変え、フジグラン松山別館を会場に、「高めよう！ わが家、わが街 防災意識」と題して、松山市消防局より防災グッズの展示、起震車・救命救急体験、相談コーナー等設営、愛媛県危機管理課より「みんなで助け合い！ 自主防災」、愛媛大学教授より「巨大地震はいつ来るか？」の防災セミナーを開催しました。

イベント周知については、関係団体、関連企業へチラシを配布、また愛媛新聞社の広告協力を頂いたお陰で、想定以上の参加者となりました。一般市民に建築士会を知ってもらおうとともに、防災についての知識を得られた一日でした。

翌年（21年）からは、「建築巡礼inまつやま」と題し新旧和風・洋風の建築を数軒織り交ぜた見学会を開催しました。「建築士の日」の行事ということで一般市民を公募で約30名（大型バス1台分）募集し、スタッフと共にバスに乗車し各所で建物についての説明を行います。車中では建築士会の説明のほか、建築士として行っている仕事等々の説明をしながら目的地へ向かい、見学地（建物）では参加者に対し建築年代、手がけた設計者・大工・棟梁の紹介や外観・内部の技法や特徴について建築的価値を含めて建築士会会員主体にて説明しました。

参加者からは「興味深い話や建築士から生の解説を聞くことができ、有意義な一日を過ごすことが出来た」と好評を得ました。



松山支部長の挨拶 故白石俊彦氏

平成30年までこの「建築巡礼inまつやま」が続きましたが、なかでも平成22年に開催の巡礼で7月10日（土）に萬翠荘と共に見学した「愚陀仏庵」は、翌11日から12日未明の大雨の影響で、土砂崩れにより完全に崩壊しました。庵の復元設計に携わった者としては残念でありません。松山市近郊での巡礼を進めていましたが「巡礼VI」では見学地を求めて久万高原町方面へ、また「巡礼VII」では北条・今治まで出かけ、「巡礼VIII」ではバスでの移動ではなく、道後温泉界隈を徒歩で巡る企画も行ってみました。一般参加者への説明は主に青年委員が行いますが、イベント前には現場視察を行い、説明要点については先輩方のレクチャーを受けて挑みます。これも良い経験になったのではないかと思います。



青年委員による説明風景



改装前の道後温泉 又神殿前

「建築士の日」の行事は現在も行われておりますが、昨年から新型コロナウイルスの蔓延により思うように開催できないのが実情ではないかと思います。

建築士会連合会では令和3年度に「建築士の日」のPR効果を見込んで全国一斉に7月1日に何らかの行事を行うべく計画をしておりましたが、周知期間が短く愛媛士会に於いても既に計画済みや、コロナの収束が見えない中でこの日前後の行事開催を見送るところもあり、また周知不足もあり全国一斉行事は令和4年度となりました。

今年は連合会三井所前会長の防災に関する講演がWEB配信されました。来年こそ建築士会PRに役立つことが出来ればと思います。

青春委員会

松山支部 渡邊 道彦

青春とは 人生のある時期ではなく、 心のありようである



かの安藤忠雄氏が、とある詩人の詩を引用して語った言葉の中で「情熱を持って可能性を見つけ出そうという気持ちがあるうちは、まだ青春だ」と自らをまだ青春と表現されました。

「西瀬戸交流会」という非公認建築士会行事をご存じでしょうか。広島県建築士会の呉支部、愛媛からは今治、西予、宇和島、そして松山支部の気のおけない仲間の集いが、毎年持ち回りで企画されている事は、「いしづち」の愛読者の方にはお馴染みだと思いますが、せっかくの投稿の機会をいただいたので、あらためて語らせていただきます。



呉支部原田氏、今治支部青陽氏と宇和島駅にて

そもそも我々は、数年前まで青年委員会員として、他県での行事に参加しては「愛媛ここにあり」と言わんばかりにアピールし、ともに闘った同志でした。

年月は流れ、本来年齢を重ねていけば、それなりに知恵もつき、他県にも及ぶ人脈も得て、組織に貢献できる事も増えつつあるはずなのに、そんな人材が、これからという時期に、卒業という形で活躍の場がなくなっていくのを見るのは、とても勿体無い話だと感じました。

青年委員会を卒業してもなお、組織のそれなりのポジションに就き、活動意欲をもって貢献されている諸先輩方も多く存在していることは承知しておりますが、私たちは、そこを目指しているわけではなく、青年の情熱を持ったまま、言わばバカ騒ぎを続けたいのです。

お行儀のいい大人を目指している訳ではないのです。

昨年はコロナ過の為、交流会は開催出来ませんでした。が、久しく会えなくても再会すれば子供の頃のようにバカが言い合える幼馴染のような存在、そんな素敵な仲間が持てたことが、私にとっての士会に入会して特に良かった事でしょうか。

私は元インテリアデザイナーとして、商業施設等のデザイン設計業に携わっていたものの、法の改正で興味もなかった建築士資格を取得せざるを得なくなり、当時お仕事を手伝いさせていただいていたコーエキ(株)の明関社長にアドバイスいただいたおかげで無事資格取得が叶いましたので、尊敬する明関社長からの勧めもあっての士会入会に迷いはありませんでしたし、初めての奉仕活動には、誇らしい感動すらありました。

しかしながら、すべてが順風満帆ともいえず、ここは自分の居場所じゃないかとも思っていたそんな時に「西瀬戸交流会」に誘ってくれたのが、元松山支部青年委員長の松本一師氏でした。

彼は私に、士会の中に居場所を見つけてくれました。いつまでも情熱をもって共に活動を続けられる場所として「青年委員会」を卒業したなら「青春委員会」を発足しようではないかと……。

そこには、仕事の立場も組織としての序列もなく、あるのは、その人となりの魅力に惹かれあう繋がりだけなのかもしれません。

ご縁をいただきまして、前号の宇崎さんからバトンを受け、若い人から受け継いだからには、若い世代の方たちにとって参考になるような「いい話」をお伝えしなければならぬという気負いが筆を鈍らせています。

その役目は、隣のページで赤根会長がしっかりと語っていただいているはずなので、私は稚拙な文章でお茶を濁したと思います。



宇和島の熱い夜を過ごしたライブハウスに

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

令和3年 11月号 (143号) 令和3年9月22日(水)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。
情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛
FAX 089-948-0061

編集後記

今回の広報誌に新しい取り組みとして、文化財・まちづくり委員会から「良質な建築・美しい街づくりの仕組、萌芽」「第1回景観写真コンテスト」の募集のお知らせを掲載いたしました。

情報・広報委員会としても、建築士会の新しい取り組みとして、全面的にバックアップしたく、入賞作品は広報誌やホームページなどに掲載していきたいと考えています。

建築業界でも、SNS上でいろんな情報が混在して、「何が良いか。誰が良いのか」分からない時代です。その中で建築士会は、地に足がついた歴史的にも立場的にも信頼信用を得られる凄い場だと思います。お仕事の中で、いろんな方に自分の事を知って頂くには最適な場になると思います。是非、活用してお仕事に活かしてください。(入賞した記事がホームページに掲載されます。そのURLをQRコードにして名刺やチラシなどに添付することをお勧めします。)

また、お知り合いの方で募集したら良いのではないかとと思われる方もいらっしゃると思います。その方がこの記事を読まれていないかもしれません。その方に「チャンスだから応募したら？」とお伝えしてください。私もお伝えしたい方がいるので、早速お伝えしようと思っています。皆さんと共に建築士会、建築業界を盛り上げましょう。

〈いしづち〉2021/9

令和3年9月発行

発行人 会長 赤根良忠

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/赤松 慶隆 門屋 広一 成松弘之助 西森 勉 花岡 晶子